



田植後1ヵ月後を目安に中干し溝切りを行います

土壌に酸素を供給し、根を活性化させます。また、過剰な分げつを抑制することにより風通しを良くし、光が株元に届きやすくします。更に、モミ数が制限されるので、粒厚が厚く整粒歩合の高いお米ができます。軽く足跡がつく程度で、約2週間ほどの中干しを心掛けてください。

中干し時期の茎数(コシヒカリの目安)

栽植密度(／坪)	50株	60株	70株
1株あたりの茎数	20本	17本	14本

- ✓ 溝切りを行うことで、入水・落水がスムーズ(効率的な水利用)に行え、胴割米の防止と粒厚の向上につながります。
- ✓ 確実な溝切りにより、地耐力が増し落水時期を遅らせることができるので、今後のカドミウムの吸収抑制(湛水管理技術)に効果があります。
- ✓ 10aあたり1本以上の溝切りを原則実施し、溝は尻水戸までしっかりつなぐようにしましょう!



pick up 宮農指導 活動

「北近江野菜」 白ねぎ苗 丹精込めて育生

特産振興課は2年前から管内の生産者向けに、「北近江野菜」用の白ねぎ育苗事業を手掛けています。白ねぎは水田で栽培しやすく、米作が中心の湖北地域の農業者の更なる収入源として注目されている野菜です。

事業が始まった背景に、新規の白ねぎ生産者増加による作付面積拡大があります。その中でも生産者の栽培計画に合った生産を後押しすべく始まりました。また、元々あったタマネギの栽培技術を応用できたこともあり、効率的な育苗に着手できました。JAでは管内地域に適した特性品種の苗を中心に取り扱いしています。このためリスク分散・効率化を目指し、JAの育苗事業を利用する農業者も多くいます。今年は5月10日から20日の期間に、白ねぎの苗をお届けしました。

白ねぎ栽培にご興味のある方は、ぜひお気軽にご相談ください。お問い合わせ先は、特産振興課 ☎0749-63-2108



植付用の機械に乗せやすいよう苗の長さを整える「剪葉」作業と、白ねぎの苗(手前)



JAレーク伊吹とJA北びわこが合同で展開するブランド「北近江野菜」ののぼりとロゴ



特産振興課 水森 寛太
(園芸振興担当)

【水稻カドミウムリスク対策情報】 湛水管理に向け、適期作業を!

出穂前後3週間の時期になると湛水管理作業が始まります。

湛水管理は、玄米中カドミウムの吸収を抑制するための重要な技術です。

中干し作業は、地耐力を向上させる唯一の手段です!

植付約1ヵ月後2週間程度の中干しを徹底しましょう。

今後、水管理・湛水管理がスムーズとなるよう作業の実施をお願いします。

適期中干し・溝切り



【解説】
水稻玄米中カドミウム
吸収抑制

